

## 灰色かび病の発生が多くなっています！

3月の巡回調査の結果、いちご、きゅうりでは灰色かび病の発生が急激に増加し、トマトでは引き続き発生が多い状態です。いちごでは発生ほ場率が28.2%（平年値10.6%）、発生株率が2.7%（平年値0.8%）、トマトでは発生ほ場率が70.8%（平年値25.1%）、発生株率が15.6%（平年値2.3%）、きゅうりでは発生ほ場率が40.0%（平年値1.8%）、発生葉率が2.5%（平年値0.0%）と平年に比べ灰色かび病の発生がかなり多くなっています（図1、2、3）。

本格的にサイド換気ができる時期までは、ハウス内は多湿となりやすいため、灰色かび病菌の増殖に好適な環境にあり、今後もさらに発生が増加する恐れがあります。

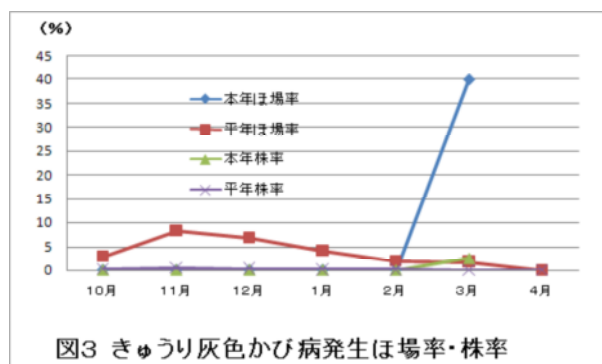
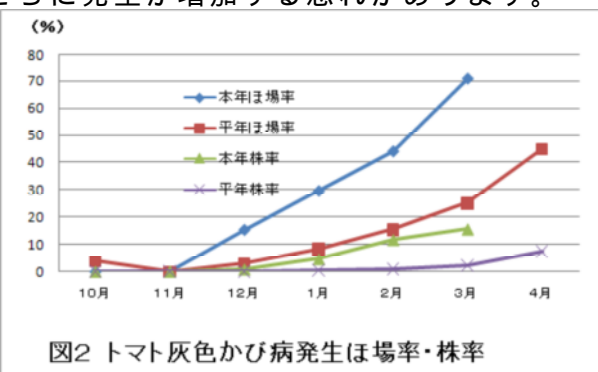
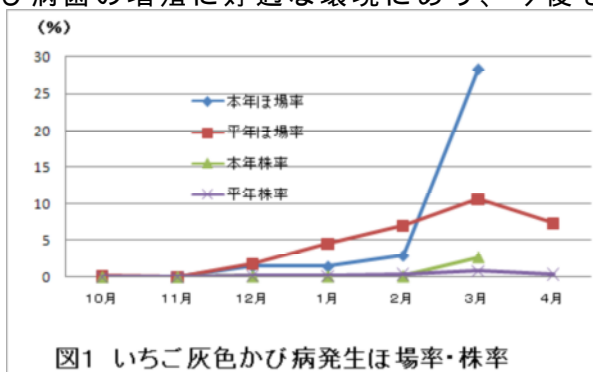


写真1 いちご果実に発生した灰色かび病

### 【防除対策】

- (1) 灰色かび病の発生しやすい条件は15～23℃と比較的低温で、多湿条件であることから、ハウス内の温度および湿度管理に注意する。特に曇雨天日が続く場合は、循環扇、暖房機を稼働し、ハウス内の湿度を下げ、植物体表面の結露を除去する。
- (2) 枯死葉、花びら、発病葉、発病果をすみやかに除去し、ハウス外で処分する(写真1)。
- (3) 曇雨天時は液剤の使用を控え、くん煙剤等を使用すると過湿防止に有効である。
- (4) 同一系統薬剤の連用を避け、系統の異なる灰色かび病登録薬剤（フルピカフロアブル、カンタスドライフロアブル、ジャストミート顆粒水和剤など）のローテーション散布を行う。

詳しくは、農業環境指導センターまでお問い合わせください。

TEL 028-626-3086

<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/>